

ลมจากกรุงเทพฯ バンコクの風



JSPS
BANGKOK
NEWSLETTER
2018-19 Vol.2

Văn Miếu
文廟(奎文閣) (ベトナム)



JSPS BANGKOK CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催	01	センター活動記録	19
バンコク研究連絡センターの主催セミナー・	04	コラム	20
参加イベント		学術情報 (2018年4月-6月)	21
JSPS同窓会情報	15		
特集「国立6大学連合Sixersの海外展開について」	16		
金沢大学			
大谷 吉生 副学長(国際担当)			



センター長挨拶

JSPS バンコクセンターの活動報告や東南アジアにおける学術情報を季刊で紹介する「バンコクの風」2018年度第二号（2018年7－9月分）をお届けします。

日本と東南アジア諸国との学術交流をさらに推進する起点となったのは、1977年8月、マニラでの、当時の福田赳夫首相が発表した、いわゆる「福田ドクトリン」と呼ばれるものです。これは、アセアン諸国との対等なパートナーとして、信頼関係を構築し、平和と繁栄に寄与するとの日本政府の決意表明でした。これを受けて翌年1978年、JSPS は、タイの NRCT、インドネシアの LIPI、DGHE と、89年にはフィリピンの DOST と学術提携協議書（MOU）を締結し、日本とそれぞれの国の研究者による二国間共同事業への支援を開始しました。その MOU 締結 40 周年を記念して8月、9月に開催されたタイとインドネシアでの祝賀シンポジウムは本報告書で紹介のとおりです。

1978年という年は、また JSPS が発展途上国への国際貢献の一つとして、「論文博士号取得支援事業（通称ロンパク事業）」を開始した年でもあります。欧米にはなく日本の大学だけが授与している論文博士号を活用し、博士号（PhD）取得を希望するアジア、アフリカの研究者が、今の仕事を辞めることなく、休暇などを利用して日本の大学で博士論文の指導を受ける、そのための旅費や滞在費を3年間支援するという事業です。これまでの40年間で770名がその恩恵に浴しています。中でも、タイ（220名）、インドネシア（150名）、フィリピン（90名）、ヴェトナム（40名）、マレーシア（30名）など、アセアン諸国の取得者は8割を超えています。

論文博士号のあり方については、日本の高等教育制度全体の中で検討されるものではありませんが、アセアン諸国には、カンボジア、ラオス、ミャンマーなど、まだまだこのロンパク事業を必要とする研究者が多い国があります。ぜひとも継続してほしいものです。

2018年10月 吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長
山下 邦 明

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

チュラロンコン大学で JSPS 事業説明会を実施（7 月 6 日）

チュラロンコン大学で JSPS 事業説明会を開催しました。同大学は 1917 年設立の国立大学で、タイで最も長い歴史を持つ大学として知られています。同大学での事業説明会は山下センター長が 2012 年に着任後は初となります。大学スタッフの方が事前広報にご協力くださり、約 50 名と多数の方にご参加いただきました。

説明会は Associate Prof. Vithaya Kulsomboon (Assistant to the President for Research, Development and Innovation) の開会の挨拶に始まり、続いて山下センター長から説明会の機会をいただいたことへのお礼を述べました。その後富山副センター長、新原国際協力員、簗輪国際協力員から JSPS の概要、各国際事業について説明しました。

最後に、JSPS 国際事業経験者で現在はチュラロンコン大学で勤務されている 2 名にご講演をいただきました。Asst. Prof. Juthamas Ratanavaraporn (Biomedical Engineering Program, Faculty of Engineering) (写真左下) は外国人特別研究員として京都大学で 2 年間研究をされました。当時の国際色豊かな研究室メンバーとの思い出も交えながらお話いただきました。Prof. Songsri Kulpreecha (Department of Microbiology, Faculty of Science) (写真右下) は論博事業により大阪大学で博士号を取得され、申請に至った経緯や日本での研究生活についてご説明いただきました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/07/06/6456/>)

JSPS 主催事業説明会の開催

マヒドン大学で JSPS 事業説明会を実施（7 月 10 日）

マヒドン大学サラヤキャンパスで JSPS 事業説明会を開催しました。マヒドン大学は国立の総合大学ですが、前身はタイ初の医学学校だったこともあり、現在でも医学分野において大きな強みを持った大学です。当センターは毎年マヒドン大学で事業説明会を実施しておりますが、サラヤキャンパスでの開催は 2015 年 7 月以来となります。

Prof. Ruengpung Sutthent (Acting Vice President for Research) から開会のご挨拶をいただいた後、山下センター長、富山副センター長、新原国際協力員、簗輪国際協力員から JSPS の概要や各種国際事業の説明を行いました。

その後、マヒドン大学で勤務中の 2 名の JSPS 事業経験者からご講演いただきました。Dr. Kittiphong Paiboonsukwon (Lecturer, Thalassemia Research Center, Institute of Molecular Biosciences) (写真左下) は埼玉医科大学で外国人特別研究員として研究をされた経験をお持ちで、当時の写真を交えながらユーモラスにお話いただきました。

Dr. Noppol Arunrat (Faculty of Environment and Resource Studies) (写真右下) は論博事業により北海道大学で博士号を取得され、今年 2 月に開催した論博メダル授与式でもご自身の博士論文の研究内容についてご講演いただいています。

今回は論博事業の概要・目的や申請要件を改めてタイ語でご説明いただいたり、日本での経験を共有いただいたりと論博事業への申請を考える方にとって大変参考になる内容でした。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/07/10/6469/>)

JSPS 主催事業説明会の開催

インドネシア・ウダヤナ大学で JSPS 事業説明会を実施（9 月 28 日）

インドネシアのウダヤナ大学で JSPS 事業説明会を開催しました。

ウダヤナ大学はバリ島中心部に拠点を構える国立総合大学で、昨年に引き続いての説明会実施となります。同大学の Visiting Professor を務めておられる、秋田大学教育文化学部の高樋さち子准教授に大学との調整や広報等ご協力いただきました。

説明会は、冒頭で山下センター長から JSPS の組織概要、海外研究連絡センターの役割、同窓会について説明し、その後新原国際協力員と富山副センター長から各種国際事業について説明を行いました。

続いて、論博事業により東京大学で博士号を取得された Dr. Anak Agung Ayu Mirah Adhi (Professor, Laboratory of Veterinary Pathology, Faculty of Veterinary) と外国人特別研究員として日本で研究を行った経験のある Dr. I Gede Putu Wirawan (Professor, Integrated Lab of Bioscience and Biotechnology) からそれぞれのご経験についてインドネシア語でご講演いただきました。

今回はウダヤナ大学の学部生・大学院生を中心に約 100 名の方々にご参加いただき、日本留学や研究活動への関心の高さを伺うことができました。



Dr. Wirawan (左から 2 人目)、Dr. Anak (同 3 人目)、司会をしていただいた Mr. I Ketut Tika (右端)



会場の様子



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/09/28/6786/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、タイ国内外で実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN 地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

Thailand Research Expo 2018 にて NRCT-JSPS-JAAT セミナーを開催（8 月 9 日）

バンコク・コンベンションセンターで NRCT-JSPS-JAAT セミナー「タイと日本における科学技術・学術交流-過去、現在、そして未来へ」を開催しました。

当セミナーは毎年タイ学術研究会議（NRCT）が主催する Thailand Research EXPO のプログラムの一つとして、NRCT、JSPS、そして JSPS タイ同窓会（JAAT）の共催で実施されました。今年は JSPS と NRCT の間で結ばれた二国間共同研究・研究者交流支援に関する覚書の締結 40 周年という節目の年で、両組織を代表し、NRCT の Prof. Dr. Sirirurg Songsivilai (Secretary-General) と JSPS の里見進理事長が基調講演を行いました。“NRCT-JSPS 40 years collaboration - prospect for the next 40 years” という共通のテーマに基づき、これまでの協力関係の振り返りや、今後への期待などが述べられました。



Prof. Dr. Sirirurg Songsivilai
(Secretary-General of NRCT)



JSPS 里見進 理事長

今回のセミナーでは、前述の覚書により支援を行ってきた、「二国間交流事業（タイとの共同研究）」の中から以下 4 件の課題をピックアップし、それぞれの研究内容や日本・タイの交流についてご講演をいただきました。

課題名：熱帯地域（タイ国）における網羅的病原体検出法
開発の共同研究推進

講演者：京都府立医科大学大学院医学研究科
中屋 隆明 教授



京都府立医科大学・中屋教授

課題名：Notch シグナル制御を可能にする生体材料を用いた
iPS 細胞分化誘導技術の開発

講演者：東北大学大学院歯学研究科 江草 宏 教授
：チュラロンコン大学歯学部
Prof. Prasit PAVASANT



東北大学・江草教授

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

課題名：スピルリナの唯一の形質転換系を用いた耐熱性
フィコシアニンの異種発現

講演者：筑波大学生命環境系 鈴木 石根 教授
：タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）
Dr. Kalyanee PAITHOONRANGSARID



NSTDA・Dr. Kalyanee と筑波大学・鈴木教授

課題名：タイ産薬用植物並びに内生菌由来生物活性成分の
生産性向上と新規医薬資源の探索

講演者：九州大学薬学研究院 田中 宏幸 准教授
：コンケン大学薬学部 Prof. Waraporn PUTALUN



九州大学・田中准教授

それぞれの講演の中で、日タイの共同研究チームが発足したきっかけから、現在の協力状況に至るまで説明がありました。さらに、この共同研究を契機とした当会の論博事業による研究者受け入れや、共同研究の規模を広げて科学技術振興機構（JST）等の事業に採択される等、好事例が多く聞かれました。

最後の山下センター長の閉会の辞では、ご講演いただいたスピーカーの先生方をはじめ、全ての関係者への感謝の言葉を述べられました。また、現在バンコクを中心に日本の大学事務所が数多く設置されていることにも触れ、JSPS バンコク研究連絡センターとして日本とタイの交流をさらにサポートしていくことについても語られました。



講演者、JSPS 里見理事長、NRCT Dr.Sirirung 事務局長を囲んで

(JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/08/09/6542/>)

第6回 JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) シンポジウムの開催 (9月5日)

2018年9月5日、セントラル・ルソン州立大学 (Central Luzon State University: CLSU フィリピン・ムニョス市) で第6回 JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) シンポジウムが開催されました。同シンポジウムは、フィリピン科学技術省 (Department of Science and Technology: DOST) 主催の科学技術広報イベント「e3-START2018 International Academic R&D Festival “Merging Art and Science for Next Generation Innovations”」の一環として実施されたものです。シンポジウムは、CLSU の Melissa E. Agulto 学術担当副学長の開会の挨拶で始まり、続いて、CLSU の Tereso A. Abella 学長、DOST の Leah J. Buendia 国際交流担当次官補からメッセージが述べられました。

今回のシンポジウムでは、日本人研究者2名の講演が行われました。



最初に、東京工業大学の山下幸彦准教授(写真左)から”A Brief Introduction to Artificial Intelligence”についてご講演頂きました。

山下先生のご講演では、人工知能についてその研究分野の広い裾野が紹介された後、統計的学習理論や人口知能でのホットトピックである深層学習に関する説明と、深層学習を応用する畳み込みネットワークと敵対的生成ネットワークに関してご説明がありました。



引き続いて、東京都市大学の田村慶信教授(写真左)から”Analysis Methods and Tools Based on Deep Learning for Big Data”と題しご講演頂きました。

初めに、ビッグデータは現在様々な場面での活用が進みつつあることが説明され、ビッグデータの概要およびビッグデータを扱う上での問題点としてのコピーライト等の問題について触れられました。加えて、ビッグデータをAIにより分析した活用例として、ソフトウェア工学の観点からソフトウェア開発管理上におけるフォールトビッグデータや画像情報に基づく分析手法とツール化について説明がありました。

2つの講演終了後の質疑応答では、会場からそれぞれの先生に対して具体的な質問が数多くあがる等、参加者の強い興味関心を引く内容でありました。また、学生からは学習に関する質問も出されました。AIを学ぶ上での数学の学習の必要性についての質問に対し、山下准教授は「どのような分野に進むうえでも数学を学ぶことは役に立つので、可能な限り知識を身に付けて欲しい。」と回答されていました。

講演後は、山下センター長によるJSPS概要や国際事業についての紹介があり、会場にいた参加者は配布された資料に目を通しながら、熱心に聞き入っていました。

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント



その後、JAAP の Renato Reyes 会長(写真左)から JAAP について紹介があり、JSPS の事業への応募と JAAP への加入を呼びかけがあり、引き続いて、JAAP の Susan Gallado 前会長をはじめとする JAAP 会員数名から自らの JSPS 事業の体験や意見などが述べられました。

今回のシンポジウムには JAAP メンバーをはじめ約 150 名の参加があり、講演内容や JSPS 事業に関する多くの質問や活発な意見交換がなされるなど盛況のうちに終了しました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/09/05/6707/>)

第2回 JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) シンポジウムおよび同窓会総会の開催 (9月26日)

2018年9月26日(水)、JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) 主催の第2回国際シンポジウムおよび同窓会総会がインドネシア・西ジャワ州ボゴールの Conservation Auditorium, Bogor Botanical Garden で開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、新原国際協力員が出席しました。

今回の国際シンポジウムは、日本とインドネシアの国交樹立60周年およびJSPSとLIPI (インドネシア科学院)、DG-RSTHE (インドネシア研究技術高等教育省科学技術高等教育資源総局) との覚書締結40周年を記念して開催されたものです。“The Role of JAAI to Promote Food, Water, Energy, Humanity and Environmental Security” というテーマに基づきシンポジウムは進行されました。

オープニングセレモニーでは、シンポジウム Chairman の Dr. Iin Kurnia (National Nuclear Energy Agency) (写真下左下) と Dr. Sulaeman Yusuf (Head, Research Center for Biomaterials, LIPI) が来賓および来場者へ歓迎の挨拶を行い、JSPS 本部の加藤久参与が開会の辞を述べました。



シンポジウム Chairman の Dr. Iin Kurnia



LIPI・Dr. Sulaeman Yusuf



JSPS 本部・加藤久参与

今回は日本から3名、インドネシアから1名の研究者をお招きし、各研究についてシンポジウムのテーマと関連させながらご講演をいただきました。今回は世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 総合支援事業の支援も受けてのシンポジウム開催となったため、基調講演では WPI の概要や AIMR についても説明がありました。また、基調講演のモデレーターは山下センター長が務めました。

【基調講演】

“Mathematical and Computational Approaches to Environmental Problems”

-東北大学 材料科学高等研究所 (AIMR) 水藤寛 教授(写真右)



【招待講演】

1. Food Security

“Research Collaboration of Fermented Rice Bran for Health Promotion in Japan and Indonesia”

-東北大学 大学院農学研究科 白川仁 准教授(写真右)



2. Energy Security

“Nuclear Energy and Education from Fukushima Accident to Indonesia”

-National Nuclear Energy Agency, Dr. Heny Suseno(写真右)



3. Environment Security

“Trends in Wood Machine Vision: Impact in Wood Anatomy and More”

-京都大学生存圏研究所 杉山淳司 教授(写真右)



また、今回はエジプトから JSPS カイロ研究連絡センターと JSPS エジプト同窓会 (JSPSAAE) も参加されており、JSPSAAE 会長の Dr. Ibrahim Tantawy (Professor of Organic & Medicinal Chemistry, Menoufiya University) から同窓会の活動状況とご自身の研究内容について講演がありました。

各講演の後に行われた同窓会総会では、JAAI 発足から現在までの活動の振り返りや、会計報告、そして BRIDGE フェローシップの周知が行われました。

最後に、JAAI を代表して会長の Dr. Subyakto (Professor, Indonesian Institute of Sciences: LIPI) が閉会の辞を述べました。

今回のシンポジウムには 100 名以上の参加があり、盛況のうちにシンポジウムは閉会となりました。現在 JAAI の主要メンバーの多くは LIPI 所属の研究者であり、会場の提供やシンポジウム開催費の拠出等、LIPI に多大な協力をいただいていた開催でした。この場を借りて御礼申し上げます。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/09/26/6772/>)

GMS-UC 第1回学長フォーラムに出席(7月20日)

2018年7月20日(金)、SukoSol ホテルバンコクで開催された“The Kick-off of the Project for Capacity building of the Greater Mekong Sub-region University Consortium (GMS-UC) and the 1st Rectors Forum”に当センターから新原国際協力員が出席しました。

GMS-UC はメコン川流域の東南アジア諸国(ミャンマー・ラオス・タイ・カンボジア・ベトナム)の大学で構成されたコンソーシアムで、各大学の知見の共有、相互発展を目的としています。SEAMED-RIHED の舵取りで2018-2019年の2年間、各国で様々なワークショップ等が各国で催される予定です。今回の学長フォーラムは当該プロジェクトのキックオフイベントとして開催されました。

パネルディスカッションでは「大学の国際化」について各大学の事例共有が行われ、言語の問題への対応や、留学生への支援強化の必要性、国内学生の海外派遣などのお話を聞くことができました。日本でも大学の国際化が叫ばれておりますが、東南アジアの大学も日本の大学と同様の問題を抱えていることがわかり、大変貴重な機会となりました。



冒頭で挨拶する文部科学省大臣官房国際課・寺島史朗氏
(前・在タイ日本国大使館一等書記官)



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/07/20/6498/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

タイ科学技術博覧会 2018 への出展 (8 月 17 日)

2018 年 8 月 17 日 (金)、IMPACT Exhibition & Convention Center でタイ国科学技術博覧会 2018 のオープニングセレモニーが開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、新原国際協力員、簗輪国際協力員、Natthida リエゾンオフィサーが出席しました。

同博覧会はタイ科学技術省 (MOST) とタイ国立科学博物館の共催で毎年開催されており、例年 100 万人を超える来場者を集める大規模イベントです。タイ国内・国外問わず多くの研究機関・大学・民間企業等が参加し、最新の研究等についてブース出展を行っています。オープニングセレモニーではプラユット首相(写真右)が挨拶を行い、大きな盛り上がりを見せました。

会場には政府が招待した小中学生が多く訪れており、体験型のブースで学生が楽しみながら科学技術に関するトピックに親しめる内容になっていました。また、今年世界中から注目された「チェンライの洞窟」に関する展示もありました。

日本の公的機関は在タイ日本大使館の舵取りで「ジャパンパビリオン」を出展しており、当センターはその中でタイに事務所を構える大学等の紹介ポスターを展示しました。

8 月 26 日 (日) まで各団体の展示が行われました。今回ジャパンパビリオンで出展を行ったのは以下の 10 団体です。

- ・内閣府宇宙開発戦略推進事務局
- ・宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- ・東京大学 宇宙・地理空間技術による革新的ソーシャルサービス・コンソーシアム (GETISS)
- ・情報通信研究機構 (NICT)
- ・科学技術振興機構 (JST)
- ・国際農林水産業研究センター (JIRCAS)
- ・日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点 (JASTIP)
- ・理化学研究所 (RIKEN)
- ・日本医療研究開発機構 (AMED)
- ・JSPS バンコク研究連絡センター



プラユット首相と日本の各出展団体代表

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/08/17/6593/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

「AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme 2018」による学生の来訪（8月22日）

2018年8月22日（水）、ASEAN University Network（AUN）と国立六大学連携コンソーシアム（千葉大、新潟大、金沢大、岡山大、長崎大、熊本大の旧制医科大学で構成）のスタディーツアーの学生約30名が来訪されました。

過去数年、同フロアに事務所を構える国際交流基金（Japan Foundation）と日本学生支援機構（JASSO）、そして当センターがこのスタディーツアーの学生をお迎えし、各組織の概要や業務内容の説明、オフィス見学を行っています。

当センターからは、簗輪国際協力員が日本学術振興会の概要、各種国際交流事業の説明を行いました。質疑応答では、論博事業の意義や二国間交流事業と研究拠点形成事業の違い、それぞれのメリットは何かといったご質問をいただき、興味を持ってもらえたようでした。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/08/22/6606/>）

明治大学政治経済学部 タイ短期留学プログラム学生の来訪（8月23日）

2018年8月23日（木）、明治大学政治経済学部のタイ短期留学プログラム学生約20名と同大学副学長の大六野 耕作教授、政治経済学部の齋藤 雅巳専任講師が来訪されました。

明治大学政治経済学部では留学促進プログラムの一つとして、毎年8月にタイへの約1ヶ月の短期留学を実施しています。このプログラムに参加する学生はチュラロンコン大学等で英語による講義を受講する他、日系企業や大使館を訪問するなどして日本とタイの結びつきの強さやタイの文化・慣習を学んでいます。

毎年、プログラムの一環として当センターが入居するオフィスビルにもお越しいただいており、国際交流基金（Japan Foundation）、日本学生支援機構（JASSO）と一緒に各組織の概要や業務説明を行っています。

当センターからは前日のAUNグループへの説明に引き続き、簗輪国際協力員がプレゼンテーションを行いました。

学部学生には馴染みがないであろう当会の業務ですが、この説明会が日本の科学技術・学術振興に関する政策や研究助成の仕組みなどに目を向けるきっかけとなればと考えております。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/08/23/6626/>）

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

第16回在タイ大学連絡会（JUNThai）に出席（8月27日）

2018年8月27日（月）、在タイ日本国大使館で第16回在タイ大学連絡会（Japanese Universities' Network in Thailand: JUNThai）が開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、箕輪国際協力員、新原国際協力員、Natthida リエゾンオフィサーの5名がオブザーバーとして出席しました。

第一部の講演会では以下2件の講演が行われました。

タイトル：JICA 派遣の概要とアジア&欧米生活雑感

講演者：江原 輝喜氏（タイ王国保険証医薬品食品庁・JICA 専門家）（写真左下）

タイトル：Japanese Language Interpreter and Translator Society in Thailand's Activity

講演者：Mr. Bundit Pradistanuwong (Advisor, Japanese Language Interpreter and Translator Society in Thailand)（写真右下）



第二部の連絡会では、有志メンバーによる「JUNThaiの今後について」考えるワーキンググループで議論された内容について京都大学 ASEAN 拠点の柴山所長から説明があり、以下のような点が挙げられました。（写真右）

- ・現状の JUNThai は規約等が存在しないため、運営の拠り所がないのが問題
- ・持ち回りの幹事校だけでなく、安定した事務局の設置が必要ではないか
- ・在タイ日本国大使館・JSPS・JASSO らの公的機関が現状「オブザーバー」としての参加であるが、今後役割の見直しが必要ではないか
- ・JUNThai の認知度は高まっているが、外部から見ると JUNThai について情報収集できるウェブサイト等はなく、実態のない組織として捉えられてしまう



ワーキンググループでの議論を踏まえ、今回の連絡会では、外部から問い合わせがあった際に参加大学の一覧さえ開示できていない現状の改善を目的として、「JUNThaiに参加している大学リストを改めて作成し、問い合わせがあった場合にはそれを公開する」ことが提案され、承認されました。

今後、幹事校から現在 JUNThai 参加校として認識されている各大学へ個別に確認をとり、参加校一覧に掲載してよいと回答があった大学のみがリストに掲載されます。

運営体制の見直しや情報公開の方法については、今後の連絡会で引き続き議論を続けることとなりました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/08/27/6642/>）

大阪大学海外フィールドスタディの来訪（9月7日）

2018年9月7日（金）、大阪大学生物工学国際交流センター（ICBiotec）の木下浩助教と同大学大学院工学研究科の学生27名が訪問されました。

御一行は海外フィールドスタディ「生物資源と環境」のためタイ滞在中であり、プログラムの一環として過去数年、当センターを訪問いただいています。オフィス見学を行った後、同フロアの国際交流基金（Japan Foundation）、日本学生支援機構（JASSO）と合同で各組織の業務説明を行いました。当センターからは富山副センター長がJSPSの概要や同窓会組織について説明を行いました。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/09/07/6700/>）

京都大学 ASEAN 拠点 NGO 認可記念式典及びタイ国立科学技術開発庁 (NSTDA) 学術交流協定調印式に出席（9月28日）

2018年9月28日（金）、京都大学 ASEAN 拠点の NGO 認可記念式典及びタイ国立科学技術開発庁 (NSTDA) との学術交流協定調印式に箕輪国際協力員が参加しました。

式典は京都大学の稲葉カヨ理事・副学長（男女共同参画・国際・広報担当）の開会の挨拶で始まり、その後京都大学河野泰之副学長（国際戦略担当）が、“Exploring New Horizon of Academic Exchange between Japan and Thailand: Based on NGO Status of Kyoto University ASEAN Center” というテーマで講演を行い、京都大学 ASEAN 拠点の NGO 認可がタイとの研究交流活動を更に活発化させるきっかけとなってほしいとお話されました。

NSTDA との学術交流協定調印式の後、最後に京都大学 ASEAN 拠点柴山守所長から閉会の辞があり、これまでの京都大学 ASEAN 拠点の活動への支援に対する謝意と、NGO 認可をきっかけとした今後の研究活動展開への期待が述べられました。日タイ双方の関係者からは、日本の大学としては初となる京都大学 ASEAN 拠点の NGO 認可に対し、今後の日タイの学術研究交流の新たな契機となることへの強い期待が感じられました。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2018/09/28/6793/>）

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナム・マレーシアでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2018 年度第 2 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会に出席（7 月 4 日）

タイ学術会議（NRCT）で今年度第 2 回目となる JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会が開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、新原国際協力員、Natthida リエゾンオフィサーの 4 名が出席しました。今回は 8 月 9 日（木）の NRCT-JSPS-JAAT セミナーの開催前最後の理事会となり、同セミナーの細部調整に多くの時間が割かれました。今回のセミナーは JSPS と NRCT の覚書締結 40 周年を記念しての開催であり、覚書に基づき実施されてきた「二国間交流事業」の中から好事例を 4 件ピックアップし、各共同研究の代表者にご講演いただく予定となっております。各講演・質疑応答を円滑に進める役割のモデレーターを JAAT メンバーにお願いすることとなりました。その他、7 月 16 日（月）、17 日（火）に JAAT が NRCT の支援を受けてブラパー大学で開催する Writing Workshop（学術論文の書き方講座）について出席者に情報共有がありました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2018/07/04/6448/>)

今回の特集では、金沢大学 大谷 吉生 副学長（国際担当）に、「国立 6 大学連合 Sixers の海外展開について」と題して、ご寄稿いただきました。

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製又は無断転載はおやめください。

国立 6 大学連合 Sixers の海外展開について

金沢大学副学長（国際担当） 大谷 吉生

はじめに

国立六大学連携コンソーシアム Sixers は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学が連携して、グローバル社会をリードする人材育成の推進と学術研究を高度化することを目的として、平成 25 年 3 月に設立されました。これら国立六大学の共通点は、歴史や規模、各地域の中核的教育・研究機能を担う点にあり、大学のグローバル化についても共有できる課題が多く、それぞれの大学が持つ優れた教育研究基盤、国際ネットワークを活用して、六大学が協働して大学の国際化とグローバル人材の育成を推進しています。

Sixers の海外展開戦略の一つに、各大学が有する海外オフィスを共用してオフィスを有効活用し、その地域での交流を特定の大学間だけでなく、大学コンソーシアム対 Sixers で深化・発展させることがあります。金沢大学はこれまでモンクット王工科大学 トンブリ（KMUTT）、プリンスオブソンクラ大学（PSU）を中心にタイの大学と研究・学生交流を推進してきましたが、KMUTT 内にあるリエゾンオフィスに加えて、新たに KX ビルに国立六大学バンコク事務所（SixERS ASEAN Platform: AP-SixERS）を 2017 年 9 月に開設しました。以下では、金沢大学が中心となり、KX ビルを拠点としたタイでの国際交流について紹介させていただきます。



AP-SixERS の開所式でのテープカット

国立六大学バンコク事務所開所式

2017 年 8 月 21 日、金沢大学及び国立六大学国際連携機構 Sixers の主催で、タイ・バンコクを中心に拠点を置く関係者ら約 70 名を招き、「国立六大学バンコク事務所」（AP-SixERS）の開所を祝いました。金沢大学山崎光悦学長、モンクット王工科大学トンプリ Sakarindr Bhumiratana 学長、在タイ日本国大使館小林 茂紀広報文化部長、ASEAN University Network (AUN) Choltis Dhirathiti 事務局長らが、開所を祝うテープカットを行い、KMUTT 学長より祝辞のあと、参加された国立 6 大学の副学長から各大学の紹介がありました。また、「KMUTT との理工系教育研修プログラム」に参加している金沢大学の学生（約 50 名）と KMUTT の学生との第 1 回日タイ学生・研究交流会を開催しました。



AP-SixERS の開所式での集合写真

第 2 回日タイ研究ジョイントシンポジウム

2018 年 8 月 20 日、KX ビルにおいて、医工連携をテーマにシンポジウムを開催しました。シンポジウムは、金沢大学の山崎光悦学長と KMUTT の Sakarindr Bhumiratana 学長の挨拶に始まり、千葉大学を除く Sixers から 5 名の教員、タイの大学（KMUTT、PSU、Burapha 大学、Mahidol 大学、Kasetsart 大学、Chulalongkorn 大学）から 7 名の教員、研究者が参加して、講演会を開催しました。また、日本側の大学院生 13 名、Global Science Campus (GSC) 高校生 5 名、タイ側の大学院生 14 名、計 32 名による研究交流会ポスター発表が行われ、日本側、タイ側それぞれ 1 名の優秀賞を獲得した学生に対し、賞状と副賞を手渡しました。今後、継続的に学生交流を実施するためには、教員間の研究協力、共同研究が必須という観点から、Sixers の先生方とタイの大学との先生方の研究マッチングを行うのが主な狙いでした。特にタイの Mahidol 大学では、医工連携が進んでおり、実際に工学系の研究成果が臨床に利用されているのには驚きました。



KMUTT 学長の挨拶



シンポジウム参加者の集合写真

8 月 22 日付けの日本経済新聞では、「6 国大が結束、世界と勝負」と題した記事が掲載され、「旧帝大や有名私立大に比べ知名度が低い 6 大学だが」と前置きの上、「国際学術協力や留学生獲得などで相次ぎ成果を上げている」と紹介されました。

おわりに

KX ビルは Knowledge Exchange for Innovation Center であり、その名の示す通り、産学官の知識、技術の共有、連携を目的とするビルであるため、在タイ企業を巻き込んだタイの大学と Sixers との連携推進が求められています。バンコク近郊の工業団地には、多くの日本の企業が生産現場を抱えており、金沢大学の卒業生も現地駐在員として多く働いています。今後は、タイで働く Sixers の卒業生と連絡を取り、在タイ企業で働く卒業生の現状を報告してもらうことによって、日本人学生に対しては海外で働くために必要なことは何か、また、タイの大学で学ぶ学生については日本企業で働く魅力を理解してもらう企画を開催できればと考えています。

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの2018年7月から9月期のその他活動は以下のとおりです。センターにはタイ及びASEAN諸国との学術の国際交流を目的とし、日本やタイの研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換・助言を行っています。詳しい活動記録は当センターウェブサイト (<http://jsps-th.org/>) に掲載しておりますのでご参照ください。

7月

- 13日 JSPS タイ同窓会(JAAT) メンバー、マヒドン大学 Prof. Wichet Leelamanit の来訪
- 19日 京都大学 和田研究員及び大阪府立大学 藤田准教授の来訪
- 19日 情報通信研究機構(NICT) 沼田尚道アジア連携センター長の来訪
- 23日 熊本大学エイズ学研究センター 岡田誠治教授の来訪
- 24日 徳山高専三浦准教授らの来訪

8月

- 10日 日本学術振興会 里見進理事長・中塚淳子国際企画課長の来訪
- 7日 大阪大学 三森八重子教授の来訪
- 21日 新潟大学 清廣総務部長・竹下留学交流推進課長の来訪
- 22日 「AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme 2018」の来訪
- 23日 明治大学政治経済学部 タイ短期留学プログラム学生の来訪、上智大学 林裕佳職員の来訪
- 24日 富山大学 井村国際部長らの来訪
- 29日 山口大学今井剛教授・斉藤康平職員の来訪
- 30日 東海大学 山口滋グローバル推進本部部長らの来訪
- 31日 東京大学教育・学生支援部国際交流課 松本課長の来訪、関西大学国際部国際連携グループ 東條課長・武市課長補佐の来訪

9月

- 7日 大阪大学海外フィールドスタディの来訪
- 10日 筑波大学国際室 横瀬課長・竹中職員の来訪
- 11日 東亜大学芸術学部 田中綾華さんの来訪、福山市立大学教育学部 弘田陽介准教授の来訪
- 14日 岐阜市立女子短期大学 松浦康之専任講師の来訪

簗輪国際協力員のバンコクつれづれなるままに

毎日半そでで過ごせる、暖房もいらない、冬のどんよりとした曇り空も雪も降らない一年間を過ごす。そんな喜びに満ちてバンコクに降り立った4月1日が、まるで昨日のこのように思い出されます。(最後の二つは雪国にお住まいでない方はピンとこないかもしれません。)

バンコクに赴任した当初、もとい赴任する前からですが、雪国出身の私は常夏の国に対するあこがれはとても強いものでした。

さて、タイにきた外国人は昔から「タイの季節は3つ、ホット(hot)、ホットター(hotter)、ホットテスト(hottest)だ」というそうです。気になって気候を調べてみると、バンコクだけみても1年の平均気温は29℃、平均湿度は73%(いずれも2014年平均)です。本当は暑季、雨季、乾季と3つの季節があると言われても、春夏秋冬のある日本に生まれた私達にはピンとこないのが実情ではないでしょうか。

しかし、よく町の中を見てみると、スーパーや果物の屋台に並んでいる果物のラインナップが変化したり、街路樹の花の色の変化に気づくことがあります。

それにしても、折角一年間は季節の変化に惑わされないことに憧れを持ってタイに来ておきながら、無意識のうちに季節の変化を感じようとしている自分にただただ驚くばかりです。

チェンマイやチェンライ、そして、そのほかいろいろな地方に個人旅行や事業ガイダンスで訪れることができたが、その際にはいつも移動の車中から外を見ながらどこか懐かしい光景を見つけてひとり感傷に浸っていました。なぜか日本を恋しく思っている自分がいることに安堵し、同時にどこか懐かしい情景を持つタイという国に対する愛着が深まっていることに気づきます。

さて、タイに赴任というと暑い国だから食あたりや日本ではかからないような熱帯の国の病気が心配という方もいらっしゃるかと思います。外務省の統計によるとタイで一番多い病気は感染性腸炎、寄生虫感染だそうです。バンコクは医療体制も技術も十分な水準に達しているため、たいていの病気は治療可能です。私も何度かお世話になりました。

しかし、実は隠れた一番多い病気は山下センター長が折に触れてお話される所謂「バンコクに居たい病」ではないかと疑って(?)います。そして私もこの症状が出始めているのに気づき始めています(笑)だからこそ日本を恋しく思えることに安心してしまうのかもしれません。

「バンコクに居たい病」は、バンコクの先進医療でも治せないように思いますので、あと半年ほどじっくりじっくり付き合っていくしかないと感じています。そして、色々な経験を積んでこの「バンコクに居たい病」とうまく付き合えるようになったあかつきには、心身ともに丈夫で、帰国後もここバンコクでの経験を生かし日本での生活をより一層豊かなものにできるようになっているのではないかと密かに期待しています。



ハンノックユーファラン

チェンマイ大学の Sirikan 先生(論博経験者)が、暑気には赤い花が咲くが、花の色は季節により様々な色に変化することを教えて下さった。



名前は不詳。アユタヤ観光した際のガイドさんが8月は黄色い花だが、今後白い花に色が変わると教えてくれた。ガイドさん曰く「花の名前はわからないが、私は大好き」とのこと。

国際協力員(新潟大学所属) 簗輪 知佳

■TriamUdom の学生が TCAS で最高得点を記録

バンコクの Triam Udom Suksa Pattanakarn School の学生が、タイ大学統一入学制度 (Thailand Central Admission System: TCAS) の第 4 ラウンドで受験者中最高得点を記録した。

タイ大学学長会議 (Council of University Presidents of Thailand: CUPT) の議長を務めるキングモンクットラカバン工科大学 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang) の Suchatvee Suwansawat 学長は、受験者のうち最高得点率は 91.29% であり、その者はチュラロンコン大学コミュニケーションアート学部 (Faculty of Communication Arts of Chulalongkorn University) に合格したと述べた。

2 位の Ratwinit Bangkako School の学生は 87.19% の得点率、チュラロンコン大学心理学部 (Faculty of Psychology at Chulalongkorn University) に合格、3 位の Rajwittayanukul School の学生は 85.85%、チュラロンコン大学政治学部 (Faculty of Political Science of Chulalongkorn University) に合格、4 位の Satriwitthaya 2 School の学生は 85.63%、タマサート大学ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部 (Faculty of Journalism and Mass Communication of Thammasat University) に合格、そして 5 位の Demonstration School of Thepsatri Rajabhat University の学生は 84.6%、マヒドン大学教養学部 (Faculty of Liberal Arts Mahidol University) に合格という結果であった。

CUPT の Suchatvee 議長によると、ブラパー大学薬学部 (Faculty of Medicine of Burapha University) が最も競争倍率が高く、TCAS 第 4 ラウンドでは 110 倍だったということだ。第 2 位から 5 位までは、スワンナナター・ラーチャパット大学タイ語教育プログラム (Thai-language education programme at Suan Sunandha Rajabhat University) が 92 倍、スワンナナター・ラーチャパット大学教育学部初等教育プログラム (Elementary education programme at Suan Sunandha Rajabhat University's Faculty of Education) が 90 倍、同社会教育プログラム (Social education programme) が 67 倍、カセサート大学人文科学部コミュニケーションアート・情報学科 (Department of Communication Arts and Information Science at Kasetsart University's Faculty of Humanities) が 56 倍となっている。

約 5 万 5 千人の学生が TCAS 第 4 ラウンドを受験し、88 の大学とその他の教育機関が提供する 754 の学部・領域の約 12 万人分の定員を争ったということである。Suchatvee 議長は、「今回希望者の多かった学部や領域等を考察すると、上位 5 分野のうち 4

つが社会科学系でした。これは、タイの若者の間では社会科学系の学問の人気の高いことを示しています」と述べた。

近年は教育やコミュニケーションアートといった分野が上位となっていたため、Suchatvee 議長はこの結果には驚かないという。

「変化の激しい現代社会に適応するため、すでに多くの大学はコミュニケーション分野のカリキュラムをよりデジタルプラットフォームに焦点をあてたものに見直しています。そのため、こういった分野は依然として学生を引きつけるのでしょう」と Suchatvee 議長は述べた。さらに、教育学の分野に目を向けると、多くの学生にとって教育学を専攻する理由はタイ政府が特定のプログラムを修了し教育学の学位を取得した者に対して大学卒業時に自動的に教師として採用する枠を設けているためだという。「学生はいつの時代も教師等の安定した職や医者、エンジニアといった給料の比較的良好な仕事に就きやすい専攻を選ぶものです。そのことはいくつかの大学で教育分野や医療分野の倍率が 90-100 倍に達していたことから読み取れます」と Suchatvee 議長は述べた。

今年初めて実施されている TCAS は 5 つのラウンドで構成されていることにその特徴がある。一度ある大学に合格した者は、辞退しない限り次のラウンドには進めないことになっている。

第 1 ラウンドは志願者のポートフォリオのみにより合否が判定される。第 2 ラウンドはスポーツ等特定の分野に強みを持っている学生や、受験する大学の近隣地域に住んでいる学生に対して枠を設けている大学が対象となる。第 3 ラウンドは、「共通直接入試 (joint direct admission)」と呼ばれており、National Institute of Education Testing Service が実施する共通テストを学生は受験しなければならない。学生は 4 つ希望の学部・プログラムを選ぶことができる。そして第 4 ラウンドは「一般入試 (general admission)」である。

(2018 年 7 月 5 日 Bangkok Post 紙)

■教育大臣、新しい入学基準について未定と発言

Teerakiat Jareonsettasin 教育大臣は、有名学校を含む全ての学校 (小・中・高) で、各学校の近隣に住む学生のみ入学対象とする考えに対して、まだ何も決定がなされていないとコメントすることで世間の懸念を和らげようとした。

タイ基礎教育局 (Office of Basic Education Commission: Obec) は学校の所在地から一定範囲内

に住む学生のみを入学対象とする新しい考えがあることを認め、現在次年度の学生入学基準を調整中ということだ。

この新しい入学基準により、現状より質の低い学生を受け入れることになる可能性のある有名学校からは、評判や権威を失うことになるのではないかと心配する声が上がっている。

しかし、Teerakiat 教育大臣は、上述のような心配は不要だと主張した。彼は世間に出回っている誤解を招く噂話を批判した。Obec 事務総長 (secretary-general) の Boonrak Yodpetch ともこの件についてすでに議論済みだという。

Teerakiat 教育大臣は、学生の入学基準は現在議論されている最中であり、誤った情報は学生とその両親を混乱させると主張した。

出生率の低下は、私立学校と公立学校の間でいかに学生を引きつけるかという激しい競争を招いた。

Teerakiat 教育大臣は各地方の教育委員会に対しさらなる連携を求め、学生が適切な学校に配置されるよう、また、学生に不毛な競争をさせないよう指示を出したという。

Teerakiat 教育大臣によると、Prayut 首相は学校への入学方法はすべて公平で責任あるものでなければならない、と指導しているという。Teerakiat 教育大臣は、「学生の入学基準は、大衆の利益を考慮しなければならない」と首相の言葉を引用した。

一方、政府はまだ小学校及び高校の入学基準については議論中であり、引き続き話し合いが続けられる、と Prayut 首相は述べた。

既存の入学システムは通常の入試、学生の居住地域を絞った入試、くじ引き、その他特別な選抜方法であるが、新しい入学システムでは全ての学生に平等に教育機会へのアクセスを確保しなければならない、と Prayut 首相は付け加えた。

Prayut 首相はさらに、新しい入学システムについて未確定の誤った情報をあたかも真実かのように広める人々を非論理的だと批判した。

政府は憲法に沿った平等な教育機会の提供のため、基金の設立を計画しているという。

(2018 年 7 月 18 日 Bangkok Post 紙)

■看護学生が大学に賠償金を要求

Nakhon Pathom 県にあるタイキリスト教大 (Christian University of Thailand) の元・看護学生 60 名は、中央裁判所で訴訟を起こし、大学が詐欺を

行ったとして賠償金 30-48 万バーツを要求している。

彼らは、タイキリスト教大学は 2017 年に看護学部には 360 人の学生を合格させたと言った。大学は 2017 年 5 月 18 日に合格者を発表し、その後、学生は同年の学費を支払った。

当時のタイキリスト教大学の看護学生は、今年始め頃学生が 2018 年度の看護大学への入学を希望し始める時期になり初めて学校の看護カリキュラムがタイ看護・助産評議会 (Thailand Nursing and Midwifery Council) の認可を受けていないことを知った。

2017 年 5 月に同評議会は入学手続きを中止するよう大学に促していたが、大学は対応しなかった。評議会とタイ高等教育局 (Office of Higher Education Commission: OHEC) は、すでに学生に大学の看護カリキュラムが不認可であり、卒業しても看護師の資格は得られないことを伝えている。

結果的に先述の 60 人の学生はタイキリスト教大学を去り、既に新しい学校を見つけているが、タイキリスト教大学に対して法的措置をとることを決断した。

学生の中には、今年初めに大学の職員が当該カリキュラムの認可取得について約束していたにも関わらず、急にそれができなかったと言い出したため、2 年もの期間を無駄にしてしまったという学生もいた。

学生たちは年間 10 万バーツ以上の学費を支払っていたという。

(2018 年 7 月 27 日 Bangkok Post 紙)

■コンケンとプーケット、アジア太平洋地域のスマートシティに指定

International Data Corporation (IDC) Thailand は 2018 年の IDC スマートシティアジア太平洋賞 (Smart City Asia Pacific Award: SCAPA) を受賞したコンケン (Khon Kaen) とプーケット (Phuket) を、日本を除くアジア太平洋地域 (Asia Pacific excluding Japan: APeJ) で最も優れたスマートシティプロジェクトを持つ都市として指定した。

SCAPA 受賞となった “Khon Kaen Smart Health Project” と “Phuket Smart Tourism and Living Communities Project” は、それぞれ「公衆衛生と社会サービス」と「観光・芸術・図書館・文化・オープンスペース」のカテゴリーでの受賞となった。

コンケンとプーケットの上記プロジェクトはタイ・デジタルエコノミー推進庁 (Digital Economy Promotion Agency: DEPA) により開始されたものであり、APeJ 地域における 148 のスマートシティプロジェクトのうち最も優れた 19 件に選ばれていた。

IDC によると、この 2 件は最新の技術（クラウド・プラットフォーム・データ解析・モバイルソリューション）とデータ、特徴的なパートナーシップ、資金調達モデルの構築、地域コミュニティとの連携などを活用した都市革新のベストプラクティスを示しているという。

“Khon Kaen Smart Health Project” は、DEPA が地域の医療サービス業者や大学と組んで行っている施策であり、3 つの構成要素を持っている。

第一の要素は、遠隔会議システム、IoT、ロボット

技術を活用し、救急隊派遣業務の効率を高め、患者が病院に到着する前に医者が初期診断と緊急治療を行うことを可能にしたスマート救急車である。第二の要素は、スマートリストバンドとスマートホームソリューションを活用し市民の健康に関わるデータを観察・収集し、それに応じて健康指導を実施する予防医療サービス。第三の要素として、ブロッ

クチェーン技術とビッグデータ分析を活用し、官民双方の医療サービス業者がアクセス可能な医療データ共有プラットフォームを現在開発中である。

一方、“Phuket Smart Tourism and Living Communities Project” は、DEPA とタイ・デジタル経済社会省（Ministry of Digital Economy and Society）の共同施策で、様々な政府機関、プリンス・オブ・ソンクラ大学（Prince of Songkla University）、プーケットシティディベロップメント（Phuket City Development）と協力して、都市の持続可能な観光開発と地域住民の安全確保を目的としている。

このプロジェクトを表すキーワードとしては、スマート観光、住民の安全、スマート環境、スマート政府などがある。街の隅々へ無料の高速 Wi-Fi を整備したり、プーケットスマートシティアプリケーション、スマートリストバンドを観光客向けに提供したりしてスマート観光の実現を図っている。住民の安全は、ナンバープレートや顔認識、船舶追跡システムなどの分析機能を備えた CCTV カメラを導入することによって高められている。スマート環境への取り組みとしては、IoT 技術を活用した排水管理システムの導入が代表的だ。都市データプラットフォームを開発し、政府の意思決定を助ける都市データをリアルタイムで供給できる環境を作ることスマートガバメントの実現にも取り組んでいる。

アジア太平洋地域でスマートシティ改革が大きな経済的、社会的、環境的な意味合いを持ち、政府機関から市民一人ひとりに渡るあらゆるレベルでの協力・連携が必要であると IDC Thailand 運営責任者の Jarit Sidhu 氏は述べた。DEPA は街をより住みや

すく、住民がより前向きな生活を送るために、スマートシティ改革が持つ可能性の検証、新興技術とイノベーションの活用を進めている。

(2018 年 8 月 4 日 The Nation 紙)

■プラユット首相、研究開発省の発足を指示

プラユット首相は次回の選挙までに研究開発およびイノベーションを管轄する新しい省の発足を指示した。このことに関連して教育省副大臣の Udom Kachintorn 氏は以下のように述べた。

「首相はタイ経済の新たな成長エンジンとして 10 のターゲット産業を定めたタイランド 4.0 およびタイ・デジタル経済社会開発 20 年計画の達成のために求められる労働者を市場に供給するための人材開発を担当する、高等教育、研究開発を管轄する省の設置を速やかに行うよう求めている。」

「政府は、新しい省が研究教育の質を向上させている高等教育機関や産業界の需要に対応する研究開発支援に貢献すると期待している。この省は所得格差の是正に関しても重要な役割を果たす。」

7 月 3 日に、現在科学技術省傘下の 11 の研究開発機関、84 の国立大学、そして 73 の私立大学を管轄する新しい省の発足が閣議決定された。

政府は 2019 年度予算から 970 億バーツをこの新しい省に充てる予定である。Udom 氏によれば、新省の設置法案は 11 月までに国家立法議会に発議され、来年の 2 月までに新省が発足する予定とのことだ。

ここ三年の政府の研究開発支援への予算は、2015 年の GDP 比 0.62% から 2017 年には GDP 比 0.75%、つまり 1025 億バーツに達している。

今から 5 年前に緩やかに予算支出を増加させるまでの 20 年間は研究開発とイノベーションに対する支出が GDP 比 0.25% を超えることはなかった。

しかし、タイ政府は次の 1、2 年でこの支出が GDP の 1% に達すると予測する。

政府は“タイ・デジタル経済社会開発 20 年計画”に基づいて、2036 年までに研究開発関係の支出を対 GDP 比 2% にまで押し上げるとしている。

さらに、この計画は現在研究開発費の 70% を支出する民間部門に対し、2036 年までに 80% まで増額するよう求めている。

また、政府は 2018 年度末までに昨年度予算から 15% 増の 170 億円を研究開発費として支出する。

(2018 年 8 月 8 日 Bangkok Post 紙)

■労働者のスキルアップは新省の目標

教育省副大臣の Udom Kachintorn 氏は、就職率が低く、タイ・デジタル経済社会開発 20 カ年計画もしくはタイランド 4.0 の目指す基準にスキルが達していない学生を多く輩出する大学については、新しい

教育・科学技術関連の省の発足とともに補助金を減額することを発表した。

具体例として社会科学と公衆衛生科学に関連する学部が含まれているとし、公衆衛生分野の学部では毎年 10000 名以上の卒業生の大多数が就職できておらず、社会科学分野の学部の卒業生についても同じ状況が当てはまることを指摘した。

昨日 "New Ministry: Opportunities and Challenges" をテーマにカセサート大学で行われたセミナーにおいて、新省設立の担当者である同氏は、この施策は独自の評議会を持つ大学への介入を強めるものではないと述べた。

ただ、この予算方針は、労働市場の需要にマッチしない多くの学部を閉鎖するか縮小することを大学に対して強制することになる。

Udom 氏は加えて以下のように発言している。

“新しい省の予算は国家の掲げる目標に沿うための積極的な改革を実施する大学に重点的に配分する。新しい省の下、国家の要請に合致する分野の学生には一人当たり 120,000 から 150,000 バーツの予算配分を行う。”

“しかし、労働市場のニーズを満たしておらず、結果として多くの卒業生が就職できていない学部の予算は減額する。これは各大学が強みや専門性のある分野に集中してもらうべくプレッシャーをかけ、方針を修正させるためだ。”

“例えば、マヒドン大学とラジャパット大学群はそれぞれ強みのある分野が異なるので、競合することはないはず。個々の大学において広く浅くすべての分野を網羅的に強化することは不可能であり、タイの大学は今後全ての分野で競争していく必要がある。他の大学が開講しているという理由だけで学部を開設しているケースもある。”

新省の発足に関わっている科学技術省の Suvit Mar-esincee 大臣は、以下のように発言している。

「タイ・デジタル経済社会開発 20 カ年計画もしくはタイランド 4.0 の目指す基準に合致する高いスキ

ルを保持した質の良い人材を輩出するだけでなく、タイの大学が研究とイノベーションの先駆的な役割を果たすようになることが目標である。これらを達成することでタイは中進国の罫から抜け出し、先進国入りを果たすことが出来る。」

「我々は今、混沌の時代を生きている。外国の技術に頼るだけでは GDP を押し上げ、中進国の罫から抜け出すことはできない。そのためにも、国際的な競争に参加するための改革が必要で、我が国の大学は先陣を切ってその改革に臨むべきなのだ。」

「新しい省の短期的な目標として、自然科学専攻の学生と社会科学専攻の学生の比率を現在の 30:70 から 50:50 にする。社会科学や人文科学の学部を軽視しているわけではないが、卒業生数が多すぎる現状は問題だ。」

国家立法議会は高等教育法案が 11 月までに可決されるとしており、新しい省は高等教育局と科学省の機能が合併されたものになる。

(8 月 25 日 Bangkok Post 紙)

■医師や看護師を危機にさらす医療関連高等教育法案の 4 条文

タイ国医師評議会 (The Medical Council of Thailand) および 10 の専門家団体は、昨日、高等教育に関連する法案の 4 条文が生命とタイの将来を脅かすとの懸念を示した。

“問題となっている条文は、大学の課程に対する認証評価およびカリキュラム策定に専門家機関を関与させないことを企図するものだ。この条文が施行された場合は専門家機関が医師、看護師、歯科医師、会計士、薬剤師、臨床衛生検査技師、理学療法士、技工士、およびメディカル・エンジニアの行為に対し、規制をかけることが不可能となる。”

医療の専門家を養成する課程には、臨床での医療行為を行うための教育内容も含まれている。適正な審査基準がなければ、生命が危機にさらされることもあるとする声明が 11 の専門家機関の合同記者会見の中で発表された。

医学部が質の低い卒業生を世に送り出せば国民に悪影響を与えるとタイ国医師評議会の副事務局 Khrieng Ausavarungnirun 博士は述べた。

タイ看護・助産評議会 (Thailand Nursing and Midwifery Council) 副会長 Siri-orn Sindhu 氏は、以下のように発言している。

「教育機関において質の高い教育を提供しなければ、学生への悪影響があるだろう。私達は、すべてとはいわないが大半の一流の看護師養成機関の卒業生が看護師に十分な資格を持っていると考えている。ている。ただ、10%弱の新設の機関の卒業生は及第点といったところ。これらの卒業生の多くは最終的に看護と関係のない職業についてしまうからだ。

毎年 60%の新卒者が看護師資格を取得しているが、高等教育法案が修正なしに可決されてしまったなら、この数字は急激に下がるだろう。」

タイ国獣医師評議会 (Veterinary Council of Thailand) 会長の Thawatchai Sakphuarum 氏は、獣医師は、ペットだけではなく家畜の治療をも行っている事実を無視することはできないとしたうえで、「獣医学の専門家は年 1000 億バーツ以上の規模を誇る産業においても重要な役割を果たしている」と述べている。

また、医療技術評議会 (Medical Technology Council) の理事である Somchai Viriyayudhakorn 氏は、専門家機関による教育プログラムに対する規制が不可能になった場合の責任の所在について疑問を呈したうえで、「あくまでも反対しているのは法案全体ではなく、問題になっている 4 つの条文に対してのみだ」と述べている。

なお、高等教育関連法案に関する国家臨時特別委員会評議会 (Council of State's ad-hoc committee) の議長 Borwornsak Uwanon 氏は、「自分が議長を務める委員会においては専門家団体の意見も考慮する」と述べている。

(2018 年 8 月 30 日 The Nation 紙)

■タイ人研究者が南極調査チームに参加

タイ人研究者が中国極地研究所 (Polar Research Institute of China: PRIC) の調査チームに加わり、南極大陸で行われる 11 月 10 日から 4 月 10 日にかけての 5 ヶ月間に渡る天文学・極科学研究プロジェクトに参加する見込みとなった。

このプロジェクトの目的は地球に降り注ぐ宇宙線の影響をよりよく理解することであり、宇宙線の研究を進展させる新しい装置の開発に繋がる。今回の南極で行われる調査にタイ人として唯一参加する天文学者 Mr. Pongpichit Chuanraksasat (25 歳) は、選ばれたことを光栄に思うと語った。

タイ国立天文学研究所 (National Astronomical Research Institute of Thailand: NARIT) で勤務

する Mr. Pongpichit は、自身が調査チームの一員として南極に関する新たな知識を生み出す力となること以上に、これを機に学生がこの分野の学問に興味を持つことを期待している。

チェンマイ大学 (Chiang Mai University) 副学長の Sampan Singharajwarapan 准教授は、今年初めに同大学が NARIT と協力して PRIC に研究計画書を提出し、地球上の宇宙線の影響に関する研究を提案したと述べた。

この提案は承認され、計画書に記載したように貨物コンテナを研究室として改造し、南極大陸の砕氷船に調査チームメンバーとともに送り込むと同氏は述べた。船は 11 月 10 日に上海を出発する予定だ。

タイと中国の天文学と極域科学における協力関係は、2013 年にタイ・シリントーン王女 (Her Royal Highness Princess Maha Chakri Sirindhorn) がこの分野の研究協力を開始したいと表明してから始まった、と NARIT 顧問の Boonraksa Soonthorntham 准教授は語った。

上述の貨物コンテナを改造した研究室には、新たに開発された "Changvan" という中性子検出器が装備されていると彼は述べた。この中性子検出器は、マヒドン大学 (Mahidol University)、デラウェア大学 (The University of Delaware)、ウィスコンシン大学リバーフォールズ (University of Wisconsin-River Falls)、信州大学などタイ国内外の研究者が参加した以前の共同研究プロジェクトで開発された。このプロジェクトのタイ担当部分に関わった Waraporn Nuntiyakul は、今回の南極での調査結果は、過去の類似した先行研究から得られた知見と併せて、さらに深く研究されると述べた。

(9 月 20 日 Bangkok Post 紙)

■タイの大学は世界ランキングで凋落傾向

近年世界の優れた高等教育機関のリストに掲載されない状況が続くなど、タイの大学の凋落傾向が懸念されている。

Times Higher Education (THE) 誌の世界大学ランキングの編集長 Phil Baty 氏によれば、「最新のデータはタイの深刻な状況を示しており、国内の主要な高等教育機関が上位 600 位以内にランクインしていないだけでなく、その他の機関についても軒並み順位を下げている。」とのことだ。

同氏は昨日の THE 世界大学ランキング 2019 の公開を受けて、同ランキング 23 位にランクインしたシンガポール国立大学でこのようなコメントを発表した。

「タイの高等教育機関は、上位 100 位はおろか、上位 500 位以内にさえランクインできていない。以前はタイで最高位であったマヒドン大学は 501-600 位のグループから今年は 601 位-800 位にまで順位を下げた。タイで最も古い歴史を持つチュラロンコン大学は 601-800 位から 801-1,000 位に急落した。キングモンクットトンブリ工科大学も、スラナリー工科大学も同様の結果だ。プリンス・オブ・ソンクラ大学、カセサート大学、コンケン大学そしてキングモンクットラカバン工科大学も 801-1,000 位のグループから 1001 位以下に下がるなど低評価だった。とはいえすべてのタイ国内の高等教育機関が順位を下けている訳ではない。」

「タイ北部の名門であるチェンマイ大学は 801-1,000 位のグループに残った。更に、キングモンクットノースバンコク大学も前回同様 1001 位以下のグループに留まっている。」

「これらと別に、マハサラカム大学、ナレスワン大学、シーナカリンウィロート大学、タマサート大学と、タイからは 4 校が初めてのランクインを果たした。すべて 1000 位以下のグループだ。」

「この毎年公表される最も信用の高い高等教育機関のランキングは、今回 15 年目を迎え、86 か国から 1250 を超える高等教育機関が掲載されている。今年の世界大学ランキングでタイの大学は掲載数を増やしランキングでの存在感は増したものの、その順位の低さから目を背けるべきではない。」

一方、隣国のマレーシアは健闘している。最高峰のマレーシア大学は 351-400 位から 301-350 位に格上げされた。昨年はマレーシアからランクインしたのは 9 機関だったが、最終的に、2019 年のランキングには 11 機関がランクインすることとなった。

また、英国のオックスフォード大学とケンブリッジ大学は昨年に引き続き 1 位と 2 位にランクインし、次点に僅差で米国のスタンフォード大学が続いている。

(2018 年 9 月 27 日 The Nation 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター アクセス&コンタクト

アクセス

高架鉄道 (BTS) Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分
地下鉄 (MRT) Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩 5 分

コンタクト

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159
Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand
Tel +66-2-661-6533 Fax +66-2-661-6535
Website: <http://jsps-th.org> Email: jspsbkk@jsps-th.org
facebook: JSPSBangkok



■ 表紙写真紹介



Văn Miếu, Hà Nội, Vietnam (文廟(奎文閣)、ハノイ、ベトナム)

11 世紀に孔子を祀るために建立された廟で、後にベトナム最初の大学が開設された。写真は奎文閣という 19 世紀のグエン(阮)朝の時代に建てられた第三の門で、上層には学問を司る星である「奎星(けいせい)」を模した窓がある。中に入ると孔子像や科挙の合格者の名を刻んだ石碑(2011 年にユネスコの「記憶の世界遺産」に登録)などがあり、学問の場にふさわしい静謐な雰囲気包まれている。

新原国際協力員が、ちょうどベトナムの 10 万ドン札(本誌発行当時)と同じ角度から写真を撮影してくれました。ベトナムの 10 万ドン札を目にする機会がありましたらぜひ確認してみてください。

■ 編集後記

サワディーカー！国際協力員の簑輪(新潟大学)です。2018 年度第 2 号の「バンコクの風」をお届けします。

第 2 四半期は第 1 四半期よりも国内外のセミナー等イベントに参加する機会はもちろんのこと、人と人との出会いもイベントの多さに呼応するかのように格段に増えていきました。今年 8 月 9 日に行われた NRCT-JSPS セミナーでは二国間事業の優秀事例となったグループがそれぞれの研究成果を発表していただきました。二人の研究者の出会いを学術交流の輪に発展させたことが大きな研究成果につながった事例を見て、改めて人と人とのつながりの大切さに気づく貴重な機会となりました。

また、今回の特集記事は、金沢大学国際担当副学長大谷先生より「国立 6 大学連合 Sixers の海外展開について」というテーマで御寄稿頂きました。既存の大学交流の枠組みである国立六大学が SixERs を設立し各大学で力を合わせて国際的な活動を展開している様子を、既存の交流を発展させて成果に繋げた好事例として興味深く拝読させていただきました。

ご多忙中にもかかわらず、執筆のお手間を取って頂き心よりお礼申し上げます。

さて、私達国際協力員のバンコク滞在も早いもので第 3 四半期に突入しいよいよ後半戦に入ります。これまで以上に周囲の皆様との絆に感謝しながら、JSPS バンコクセンターでの一日一日を悔いなく過ごしていきたいと思ひます。

(バンコク研究連絡センター 国際協力員 簑輪 知佳)

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」

監修：山下邦明 編集長：富山大
編集担当：簑輪知佳、新原卓